日本で歌い継がれた歌についての一考察
－保育者志望学生への調査をもとに－

笠　井　キミ子　　久　原　広　幸

The Study of Traditional Japanese Songs: A Survey of Prospective Children's Teachers

Kimiko Kasai　　Hiroyuki Kubara

（2009年11月27日受理）

Ⅰ．はじめに

日本で歌い継がれている歌について考える時，育った時代，環境が思い出されるものである。また，子どもの頃の思い出が脳裏に浮かび，時を忘れて思いめぐらしていることも多々あるのではと思われる。また，保育者養成校の歌唱指導において，歌唱教材の選択を常に考えるのであるが，現在，声楽の受講生と懇談する際，話題となる愛唱歌も少しずつ変化していて，年毎に時代の流れを感じる。よって，曲の選択に苦慮することも多々ある。

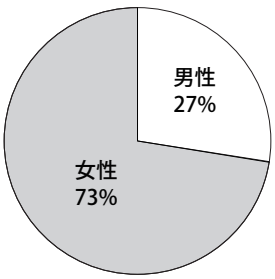
そうした時，今回のテーマを設定したのは，先ず，～親から子，子から孫へ～『親子で歌いつごう日本の歌百選』として文化庁で，平成18年に一般公募があり百選された結果が出版されたことからであった。そこで，この著書から，日本で多くの人に親しまれ，歌われる歌はどんな歌であるのか更に関心をもった。その百曲（実質曲数101曲）からは，感想文もついていて，ふるさとを思う気持ち，自然の美しさを愛でる気持ち，そして，そこでの人と人との触れ合いやつながりを感じることができた。また，最近，社会の問題の一つとして，人と人とのつながりの希薄さ，その関わり方が問われることが多いが，今回のデータから，こうした歌を歌って，心に残る思い出と共に大切にされている人と人とのつながりがあることも分かった。そこで，歌と共に，歌にあるその背景の大切さを再認識した。

私達は将来の幼稚園教諭，保育士になる学生の歌唱指導に当たっている。幼稚園教諭，保育士は，社会生活への第一歩の環境の場においての子ども達の育成に関わる重要な職業である。そこで乳幼児のめざましい発達期に共に過ごす保育者に，歌を教えてそして歌うことの大切さを教えて，たくさんの日本の歌を伝えてもらいたいと願う。本論文は，『親子で歌いつごう日本の歌百選』のデータをもとに，日頃，声楽の授業で指導している歌唱力育成や歌唱指導力育成から，更に原点に戻り，受講生の今までの歌との関わりについて調査をすることとした。

Ⅱ．『親子で歌いつごう日本の歌百選』の調査内容

①　募集内容：曲とともに，その曲にまつわる親子の思い出や，その歌に対する想いなど，曲にまつわるエピソードを合わせて募集。
②　調査時期：平成18年９月５日㈫～11月17日㈮
③　調査対象者：日本に住む人
④　応募状況と結果
応募：6,671通
（ハガキ4,697通，FAX661通，メール1,313通）
有効投票数：5,540通
・男女別割合

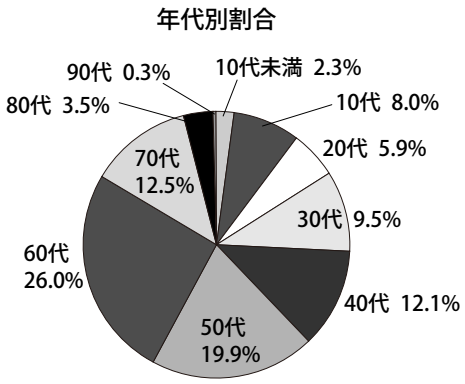
男女別割合



※文化庁　『親子で歌いつごう日本の歌百選』（2007）東京書籍. 7 頁をもとに作成。

別刷請求先：笠井キミ子，中村学園大学短期大学部幼児保育学科，〒 814-0198　福岡市城南区別府 5-7-1
E-mail：kimiko@nakamura-u.ac.jp

・年代別割合



※文化庁　『親子で歌いつごう日本の歌百選』(2007) 東京書籍. 7頁をもとに作成。

⑤　応募曲数：895曲

⑥　審査

○平成18年12月15日選考委員会にて審査

○選考委員会顧問１名

○選考委員12名とその構成

・日本演奏連盟理事長・日本 PTA 全国協議会会長・NHK 解説委員・文化庁長官・日本作詩家協会理事長・日本音楽教育学会会長・全国連合小学校長会監事・日本作曲家協会常務理事・全日本中学校長会教育研究部長・声楽家・歌手・日本童謡協会会長

⑦　選考結果：大賞曲１曲，特別賞曲15曲が選ばれ，受賞者は平成19年１月14日㈰の『親子で歌いつごう日本の歌百選』コンサートにおいて表彰，賞品を授与された。（歌百選の曲は特に順位は示されていない。）（表１）

⑧　調査のねらい[1)]

「（前略）当時の河合隼雄文化庁長官と対談したことです。その対談では「歌でつながる人と心」と題して，歌の持っている力についてお話させていただきました。（中略）日本には素晴らしい詩につけられた美しい曲がたくさんあるのだから，それを積極的に歌っていきたいと思い続けてきた（中略）また，世代間の断絶や，人間関係が希薄になっていると言われているなか，音楽は家族や友だち，仲間同士などがみんなで一緒に歌うことによって，心と心を通い合わせてつないでいくものだ（中略）いま，みんなで共通に歌える歌が消えかかっているが，だからこそ世代を超えて，みんなで歌を歌うということを復活させる，そういう運動が必要で，みんなで歌える歌を残していく（中略）今回の歌百選は，私たち日本人にとって，いずれも大変懐かしくそして耳になじんだ曲の数々です。これらの歌が長く歌いつがれていくことを願ってやみません。」引用－１－

表１

大　賞	浜辺の歌
特別賞	あめふり
	いい日旅立ち
	いつでも夢を
	上を向いて歩こう
	おかあさん
	朧月夜
	川の流れのように
	荒城の月
	里の秋
	翼をください
	涙そうそう
	故郷
	見上げてごらん夜の星を
	みかんの花咲く丘
	揺籃のうた

⑨『親子で歌いつごう日本の歌百選』の作曲された時代の曲数を調べ，次に挙げる。

Ａ：明治以前２曲　Ｂ：明治19曲　Ｃ：大正26曲

Ｄ：昭和51曲　Ｅ：平成３曲　　計101曲

Ⅲ．保育者志望学生への調査

１）目的

『親子で歌いつごう日本の歌百選』の結果をもとに，本学の保育者志望学生の歌に対する関心度，また今までの歌との関わりについて調査を行い，今後の指導の示唆を得たいと考える。そこで，『親子で歌いつごう日本の歌百選』の実施目的（Ⅱ．⑧対話内容）から，本調査のねらいを設定して進めた。尚，Ⅱ．⑧対話内容については他文献を参考とし，以下に引用して述べる。

「音楽教育に携わる者として，先達たちの心につながる「うた」，あらゆる世代に開かれた唱歌・童謡の世界を，できるだけ多くの人たちと分かち合い

[1)] 『親子で歌いつごう日本の歌百選』９～20頁に掲載された「選考委員のことば」の中から選考委員長・伊藤京子氏のことばを抜粋。

たい，そしてそのよさを，とりわけ未来を生きる世代に語り伝えたい（中略）これまで歌い継がれてきた唱歌や童謡が，わたしたちの尊い文化財であることは間違いありません。それらはいうまでもなく，わたしたちがわたしたちの先立つ人々の世界につながっていくための重要な手段なのです。（中略）このような童謡・唱歌の歌ごころと魅力を，ただ歴史的なものとしてなつかしむだけでなく，「世代をつなぐメッセージ」として語り伝えていくことは，いまを生きるわたしたちの使命であり，本書がその手がかり，一助となるならば，望外の喜びである。」引用－２－　２，３，５頁より

また，童謡研究家の太田信一郎氏は，昭和45年より17年間に亘り，童謡，唱歌，わらべ歌の故郷探訪の旅を行い，その数は100曲に到達している[2)]。全国の童謡やわらべ歌の故郷に足を運び，歌が生まれるきっかけとなった原風景をカメラに収めるその活動は，童謡のルーツがより明確になったものもあり，貴重な資料となっている。太田氏はこの活動を通して，すでになくなりかけている童歌や遊びを復活させ，地域開発，地域の活性化に貢献した。（『童謡を尋ねて』太田信一郎　昭和63年発行　富士出版）

以上の文献からも，共通で歌える歌の復活，世代を超えて歌い継ぐことの重要性が認識できた。以上のことを踏まえ，本論文は次の四つの課題をもって調査にあたった。

１．詩と曲が生かされた日本の歌
２．歌でつながる人と心，歌の持つ力
３．家族や友だち，仲間同志など一緒に歌うこと
４．みんなで共通にまた世代を超えて歌を歌うことの復活

２）調査方法・対象

保育者志望学生へ『親子で歌いつごう日本の歌百選』の曲に対する調査と一部学生であるが親子三世代での曲の調査を実施した。いずれも各授業の終了後に依頼，学生には次週に回収，親子三代では自宅での回答ということで出来次第の回収とした。

調査１　保育者志望学生平成20年度本学幼児保育学科１年生「基礎声楽」履修者・２年生「音楽Ⅱ声楽」履修者

調査２　「総合演習」担当の笠井ゼミ生33名の家族で親子三世代

３）調査項目

調査１　調査２

『親子で歌いつごう日本の歌百選』の101曲について，次の設問１～４，を作成，該当する曲名に○を書いてもらった。

設問１，知っている曲名
設問２，聞いたことがある曲名
設問３，歌ったことがある曲名
設問４，好きな曲名，思い出の曲名　○その他感想（自由記述）

４）調査時期

調査１　保育者志望学生　平成20年７月

調査２　保育者志望学生を含む親子３世代　平成20年７月～９月

５）配布数

調査１　配布数：366名，回収数：361名，回収率98％

調査２　配布数：66名　回収数：両親35名，祖父母：８名

Ⅳ．結果および考察

１）調査１の結果

設問３，歌ったことがある曲の結果

★グラフ３）を基に101曲の作曲年代を考察する。

明治以前から平成までの応募者の年齢構造をアとして，Ⅱの⑨の101曲の作曲年代をイとして，照らし合わせてみる。

ア：約，明治～大正3.8％，昭和85.9％，平成10.3％

イ：約，明治以前２曲で２％，明治19曲で19％，大正26曲で26％，昭和51曲で50％，平成３曲で３％

以上の流れとして，明治時代の歌，大正時代の歌と今につながり歌われていると考えられる。また昭和時代作曲の歌も多く上がっているが，昭和生まれの回答者も多かったこと，戦後，メディアの発達などで豊富な歌が作られ流れている点もあげられると思われる。

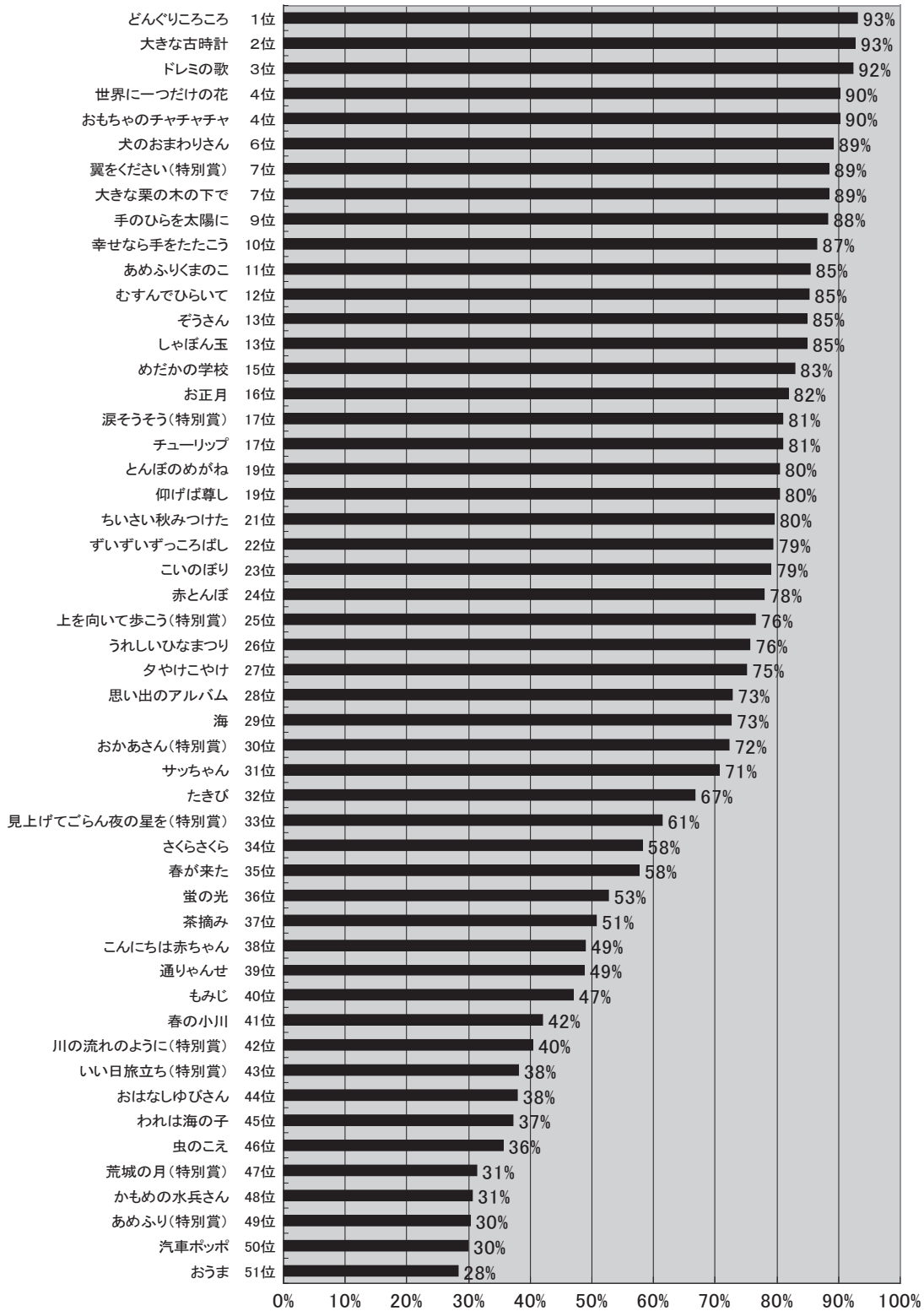
---

2) 「春の小川」や「七つの子」、「ずいずいずっころばし」など、関東、甲信越、東北一円の童謡やわらべ歌の採集の旅を妻と始め、昭和45年より17年間でその数は100曲に到達し、貴重な資料となっている。

グラフ３『親子で歌いつごう日本の歌百選』に対する調査結果　　回答：うたったことがある曲

調査対象：中村学園大学短期大学部　幼児保育学科１・２学年（366名中361名回答、無効５名）

※表示は１位～51位（%は小数点以下四捨五入）



※表示は52位～100位（%は小数点以下四捨五入）

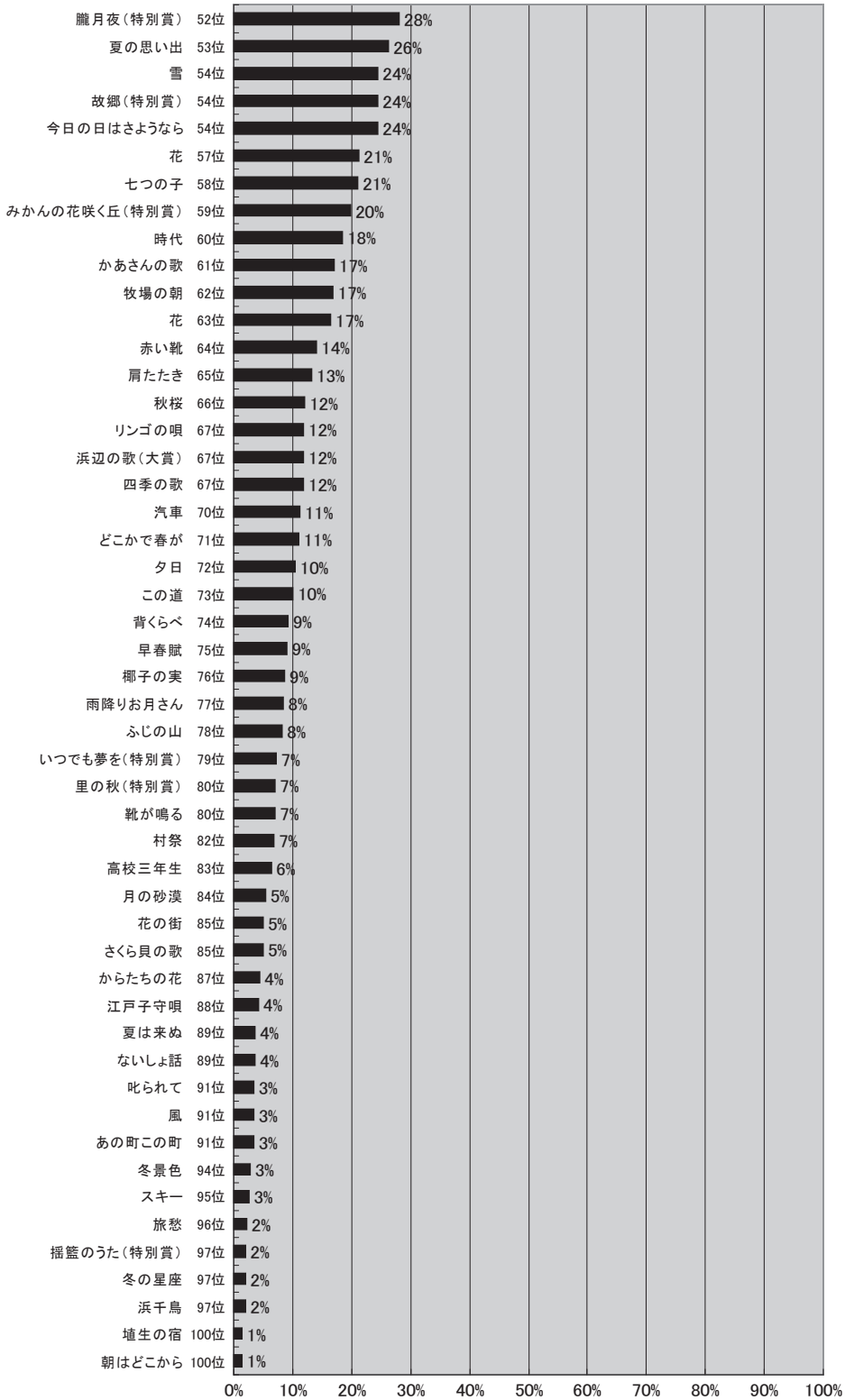


表2

大賞・特別賞曲	作詞者・作曲者・作曲年	学生調査	両親祖父母
浜辺の歌	林　古渓・成田為三・T２	12%	33%
あめふり	野口雨情・中山　晋・T14	30%	51%
いい日旅立ち	谷村新司・谷村新司・S53	38%	79%
いつでも夢を	佐伯孝夫・吉田　正・S37	7%	53%
上を向いて歩こう	永　六輔・中村八大・S36	76%	86%
おかあさん	田中ナナ・中田喜直・S32	72%	60%
朧月夜	高野辰之・岡野貞一・T３	28%	44%
川の流れのように	秋元　康・見岳　章・H１	40%	84%
荒城の月	土井晩翠・滝廉太郎・M34	31%	72%
里の秋	斎藤信夫・海沼　実・S20	7%	42%
翼をください	山上路夫・村井邦彦・S46	89%	72%
涙そうそう	森山良子・BEGINH・T10	81%	67%
故郷	高野辰之・岡野貞一・T３	24%	51%
見上げてごらん夜の星を	永　六輔・いずみたく・S37	61%	72%
みかんの花咲く丘	加藤省吾・海沼　実・S21	20%	63%
揺籃のうた	北原白秋・草川　信・H10	2%	23%

2）『親子で歌いつごう日本の歌百選』の大賞曲，特別賞曲（16曲）の作詞者・作曲者・作曲年を挙げ，その各曲について、設問３，歌ったことがある曲の結果を，調査１ と 調査２ より，学生と両親祖父母に分けたデータとして挙げ，☆表２）に示して考察する。

以上の結果を考察すると学生での調査では「翼をください」「涙そうそう」が多くて，「翼をください」については89％であった。これは25年以上前のヒット曲で学校の合唱の時間に歌われ，また時代を超えて支持している歌であり，希望や願いなど様々な感情が入った歌である。

40代～80代の結果では「上を向いて歩こう」「川の流れのように」が80％を超えた曲であった。「川の流れのように」の84％をあげると平成１年の作曲で新しい歌だが，これは年齢の高い人の方が心に残るものがある歌と，思われる。学生，40代～80代で両方ともに同じような割合が出た曲として「見上げてごらん夜の星を」が挙げられる。この曲ではバランスよく61％，72％となっていた。両方から感じることのできる共通な曲として挙げられる。

次に 調査１ での学生調査で，歌ったことがある曲の上位20曲は，やはり保育者志望学生だけに，そのまま，すぐに子ども達とも歌える歌であった。この中での「世界に一つだけの花」「涙そうそう」は平成時代の歌である。「世界に一つだけの花」は温かくやさしさ溢れる歌で，また新鮮な歌で，皆で歌って心地よくリズムにのれる歌である。「涙そうそう」は民謡調の音階が新鮮で，あの情感を込めて歌い挙げる旋律は心が表れていて素晴らしい。ほとんどの人が知っている歌であろうから，歌ったことがある曲数以上に知られている曲であるだろう。

ところで，19位に「仰げば尊し」が入ったのは想定外であった。現在，卒業式でも歌っていない歌でもあり，日頃の学生からしても想像していなかった曲である。しかし，これは教育の在り方から考えることができる。両親，祖父母など家庭での影響があると思った。伝えていくという役割からみても，そうした繋がりをみることができたのは良い結果であった。この曲は西洋風な長音階となっているが，原曲はスコットランド民謡ではないかとの説もあり，民族的な音階が流れ，更に，賛美歌であったとの説もあり，旋律，音楽形式などが非常に深いものが根底にあると思われる。そしてそれは明治時代に音楽取調掛で伊沢修二がアメリカに行き，メーソンの指導を受け，日本に持ち帰り日本語が付けられ歌われたものであった。

下位の19曲の中で，100位の１％しか結果が出なかった曲に「朝はどこから」「埴生の宿」がある。これは時代性もあると思われるが伝えていきたい曲である。指導者として聞く機会歌う機会を作りたいと思った。

3） 調査２ 家族調査で設問３歌ったことがある曲について， 調査２ 10代～20代と，家族調査による40代～80代の「歌ったことがある曲」と比較して☆表３）に示す。

この結果を比較すると，10曲中の４曲が共通していた。共通曲は「どんぐりころころ」「大きな栗の木の下で」「手のひらを太陽に」「幸せなら手をたたこう」であった。☆表３）のＡ．Ｂ．の曲で共通する点は，手遊びが自然に付けられる，リズムが分かりやすい，物語性もあり歌のイメージがつかみ易い，仲間と一緒に歌える歌ということである。年齢を超えて共にうたえる歌であることからの結果であろう。

表３「うたったことがある曲」ベスト10

A．10代～20代（66名中）			B．40代～80代（43名中）		
順位	曲名	%	順位	曲名	%
1	どんぐりころころ	93	1	ちいさい秋みつけた	95
1	大きな古時計	93	2	仰げば尊し	91
3	ドレミの歌	92	2	大きな栗の木の下で	91
4	おもちゃのチャチャチャ	90	2	幸せなら手をたたこう	91
4	世界に一つだけの花	90	2	ずいずいずっころばし	91
6	犬のおまわりさん	89	2	たきび	91
6	大きな栗の木の下で	89	2	通りゃんせ	91
6	翼をください	89	2	どんぐりころころ	91
9	手のひらを太陽に	88	9	しゃぼん玉	88
10	幸せなら手をたたこう	87	9	手のひらを太陽に	88

40代～80代の結果では１位・２位については，「ちいさい秋みつけた」は95％，「仰げば尊し」が91％とあった。

「小さい秋みつけた」はピアノの前奏が初秋の風を感じさせて美しい。調性も短調の曲で更に日本音階的，わらべ歌風なフレーズもある。風景を思い起こし，“誰かさんが　誰かさんが”と始まる歌詞はきっと誰もがそれぞれに色々な想いで歌うのではないだろうか。口ずさみやすく心に残る歌の代表としてあげることができると，認識した。

「仰げば尊し」が91％とあるのは，10代～20代での調査★グラフ３）で19位としてよく歌われた曲である。やはり学舎への思い，青春の思いが胸いっぱいにひろがるのではないだろうか。これは，以前は卒業式には必ず歌ったものであった。その青春の想いと合わせて，また友，恩師と合わせることでも，心に残る名曲と受け止められているのだろうと思われる。やはり歌う機会，場面を作っておくことは，大切なことではないかと再認識した。教育の場での音楽の授業に対しても考えることができた。

４）家族の親子３代での調査で回答者８名のデータについて

調査２　親子３世代の回答者８名について，設問４の好きな曲，思い出に残る曲について☆表４－１，４－２，４－３）に示す。

☆表４－１）は親子３世代でどんな曲が心に残っているかをみて顕著なものを挙げた。A．３世代とも心に残っているでは「仰げば尊し」が一番良くつながっていることが分かる。また，他の４曲については想定できる曲ではあった。

表４　親子３世代による比較　好きな曲・心に残っている曲

表４－１

A．３世代とも心に残っている			
曲　　名	学生	母親	祖母
仰げば尊し	38％	50％	38％
あめふりくまのこ	25％	13％	25％
うれしいひなまつり	13％	25％	25％
翼をください（特別賞）	25％	13％	25％
見上げてごらん夜の星を（特別賞）	13％	25％	25％
B．３世代とも心に残っていない			
曲　　名	学生	母親	祖母
雨降りお月さん	0％	0％	0％
浜辺の歌（大賞）	0％	0％	0％

表４－２

A．学生は心に残っていないが、母親・祖母には残っている			
曲　　名	学生	母親	祖母
江戸子守唄	0％	25％	38％
風	0％	25％	50％
サッちゃん	0％	25％	38％
B．母親は心に残っていないが、学生・祖母には残っている			
曲　　名	学生	母親	祖母
大きな栗の木の下で	13％	0％	25％
どんぐりころころ	25％	0％	25％
涙そうそう（特別賞）	25％	0％	13％
C．祖母は心に残っていないが、学生・母親には残っている			
曲　　名	学生	母親	祖母
上を向いて歩こう（特別賞）	13％	13％	0％
リンゴの唄	13％	13％	0％

次に親子３世代でB．３世代とも心に残っていないデータの曲については特に大賞となっている「浜辺の歌」もあり，残念である。歌う，聞く機会を作っていかねばと思った。

☆表４－２）については親子３世代の中で２世代のみが共通の曲としてあげた。A．での共通曲には現代につながっていない曲として「江戸子守唄」「風」があった。B．では「大きな栗の木の下で」「どんぐりころころ」などと親を飛び越えて祖母とのつながりがしっかりみられる。C．について

表４－３

A．学生のみ心に残っている			
曲　　名	学生	母親	祖母
チューリップ	13%	0%	0%
B．母親のみ心に残っている			
曲　　名	学生	母親	祖母
朝はどこから	0%	25%	0%
肩たたき	0%	25%	0%
C．祖母のみ心に残っている			
曲　　名	学生	母親	祖母
あめふり（特別賞）	0%	0%	25%
お正月	0%	0%	25%
おもちゃのチャチャチャ	0%	0%	25%
かあさんの歌	0%	0%	25%
汽車	0%	0%	25%
靴が鳴る	0%	0%	25%
高校三年生	0%	0%	25%
こんにちは赤ちゃん	0%	0%	25%
ぞうさん	0%	0%	25%
早春賦	0%	0%	25%
たきび	0%	0%	25%
七つの子	0%	0%	25%
春が来た	0%	0%	25%
春の小川	0%	0%	25%
冬の星座	0%	0%	25%
故郷（特別賞）	0%	0%	25%

は「上を向いて歩こう」は理解出来るが「リンゴの唄」については★グラフ３）での全体のデータでは少ない曲であったことから，地域性がでたのではと考える。

☆表４－３）について考察するとそれぞれの世代で歌われた歌がその時のみに思い出となっている曲である。伝承されていない現実を見たデータである。何かの形でその時々の思い出と共に歌としても世代を超えて伝えていく大切さがあると思えた。

5）更に，家族調査を行った家族の中で，ある親子３世代のアンケートデータを抜き出して比較してみた。特に顕著であるとみて，次に結果として示す。

学生Ａの家族の場合

学生Ａ　年齢18歳　出身地　大分県
母　親　年齢46歳　出身地　大分県
祖　母　年齢78歳　出身地　大分県
①３人とも歌ったことがある曲：27％
②本人と母のみ歌ったことがある曲：28％
③ 母と祖母が歌ったことがある曲：51％

このことから，学生Ａの家族の場合，本人と母より，母と祖母の方が「歌ったことがある曲」の共通曲が多いことが分かった。これは祖母の努力がみられること，良く歌って聞かせていた結果でもあったとみる。しかし，ここまで調査結果をみてきた時点では，きっと，今度はしばらく時間がたてば，親から子へとつなぐ時がくること，そしてまた１世代を超えても今度は孫へとつながっていくという，そうした流れを想定することができた。

6）人と音楽との関わりについての調査を下記期間に実施したものを参考として，今回の結果と合わせて考察する。これは『親子で歌いつごう日本の歌百選』での曲の限定はないものである。
①調査期間：2003年～2008年　②対象：2003年～2008年の５年間での２年次後期「声楽」履修者264名　③回答方法：思い出に残っている曲を複数回答可で記述してもらう。
④結果
○思い出に残っている曲を表として上位19曲を挙げる。
○思い出に残っている曲（複数回答）はいつ頃のことであるかとの設問に対しての結果として，その時期をあげる。
・幼児期128名　・児童期66名
・中学校時代81名　・高校時代24名
・短大時代22名
○以上の結果について，今回の『親子で歌いつごう歌百選』の曲での学生のデータと照らし合わせて比較してみる。☆表５）に示す。

☆表５）については『親子で歌いつごう歌百選』での曲からの限定であった場合と，自由に書いたものと比較すると差がはっきりでていて２曲以外の曲は全く違っていた。その中でも「思い出のアルバム」「大きな古時計」は20位までに共通にでた曲であった。この結果からもこの２曲が心に残る曲として認識することができた。

Ⅴ．まとめ

今回，『親子で歌いつごう日本の歌百選』から，保育者志望学生への調査を試みることができた。結果として，日本で一般に歌われる歌に関心を持ち，その歌について考えることができたことは大変有意義であった。また，幅広い年代からの調査であったことで，伝承することの大切さとか難しさについて

表５　思い出に残っている曲の比較

2008年、『親子で歌いつごう日本の歌百選』によるアンケート（学生361名）			2003～2008年、「声楽」履修者（264名）によるアンケート		
順位	曲	%	順位	曲	%
1	仰げば尊し	23	1	思い出のアルバム	13
2	世界に一つだけの花	16	2	旅立ちの日に	8
3	思い出のアルバム	14	3	大きな古時計	3
4	あめふりくまのこ	13	3	大地讃頌	3
5	涙そうそう	12	3	空もとべるはず	3
6	翼をください	11	6	遠い日の歌	2
6	大きな栗の木の下で	11	6	時の旅人	2
8	上を向いて歩こう	10	6	グリーングリーン	2
9	大きな古時計	9	6	ハレルヤ	2
10	ずいずいずっころばし	8	6	マイバラード	2
10	手のひらを太陽に	8	6	河口	2
10	おもちゃのチャチャチャ	8	6	君をのせて	2
10	どんぐりころころ	8	6	はないちもんめ	2
10	ドレミの歌	8	6	卒業写真	2
10	見上げてごらん夜の星を（特別賞）	8	15	カントリーロード	1
16	幸せなら手をたたこう	7	15	モルダウ	1
17	おかあさん（特別賞）	6	15	うたえバンバン	1
17	犬のおまわりさん	6	15	キラキラ星	1
17	うれしいひなまつり	6	15	ミカンの花	1

も考える機会となった。

『親子で歌いつごう日本の歌百選』にある歌は，わらべ歌に発して，文部省唱歌，童謡，歌曲，子どもの歌，日本の民族的音楽，外国の民族的な音楽等々，様々であった。そのことからも，これが日本で愛唱される歌の分類であると思えた。

そこで今回の調査『親子で歌いつごう日本の歌百選』は日本に住む人ということで，幼児から90歳までの投稿であったが，このことで，音楽に関して，－日本の風土としての歌－として捉えるきっかけを得た。

また学生への調査，保護者の方々への調査から歌についてそして歌を伝えることについて更に深く考えることができた。保育者になっていく学生にとって歌の存在は大きい。子ども達との心のつながりになるものでもある。是非，美しい日本の歌を次の子ども達に伝えていってもらいたいと思う。そしてまた次の時代までも続くようにと願う。

そこで，時代を追って日本の歌の流れを辿っていき，今回の調査をまとめる。『親子で歌いつごう日本の歌百選』の歌は，「江戸子守唄」，「ずいずいずっころばし」，「とおりゃんせ」など３曲が入っていて，日本古謡，わらべ歌のジャンルであった。これは，江戸時代から明治時代にかけて子ども達の間で，家族で歌ったり，遊びをつけたり，自然発生的に歌われたものである[3)]。

その後，明治新政府となり，明治５年（1872年）に学制を制定発布し，小学校では唱歌，中学校では奏楽という教科ができた。唱歌の名は雅楽で使う唱歌からとられたが，雅楽では楽器の旋律を口ずさむ練習方法であった。そこで新しい唱歌では楽器に合わせて歌い徳性を滋養し情操を陶冶することを目的に歌われる歌曲そのものとなった。唱歌教育の推進役となった伊沢修二（1851～1917）（音楽取調掛）はアメリカ（ボストン）留学でメーソンに手ほどきを受けてきて，小学唱歌集ができたのである。その文部省唱歌は，「故郷」，「春の小川」，「朧月夜」などで，また「仰げば尊し」もメーソンの紹介した歌であった。そして文部省唱歌は徳育的な内容であることと，これにはピアノの伴奏が入り，歌われる。

また，次の大正時代の童謡では≪赤い鳥童謡運動≫でたくさんの歌が作られ，「赤い靴」「あの町この町」「雨降りお月さん」「うれしいひなまつり」などがある。これは創作童謡と言われるように≪子どもに向けて創作された芸術的香気の高い歌謡≫といわれる。そして『親子で歌いつごう日本の歌百選』の結果にも大正時代につくられた歌は51曲が上がっていた。

そして，昭和時代の特に戦後にはジャズも盛んになり，外国のメロディに訳詞をつけて歌ったり，平成時代では民謡的な旋律も好まれ，特徴ある歌も歌われている。情報機器の発達は音楽にも影響しており電子音楽等いろいろな音に関心が向けられている。又，今回の「涙そうそう」は，日本の歌である

3)　その、わらべ歌については歴史上は難しく、古くは『わざうた』で日本書紀の「皇極紀」「斉明紀」などにでていて、そこには政治上の風刺や社会的事件を予言した流行歌に始まったとされている。

が，民謡的な旋律への愛着が感じられる，そうした人々の様子が伺えるものであった。

以上，クラシック的な流れとジャズ風なポピュラーな音楽がミックスされていろいろな音楽が楽しまれている現状である。こうした日本の歌は，ジャンルをあげて分類する時など，－日本の童謡，唱歌，わらべ歌，寮歌，民謡，歌謡そして世界の民謡，歌謡－と言われるように，私たちの生活ではこうした風にして親しまれているのではないか，と思えた。

次に，音楽について考えてみる時，なかなか一言では言いにくいものであるが，今回課題としてあげた４項目について考察する。

１．詩と曲が生かされた日本の歌

日本の歌の流れは昔から伝えられる和歌などに発していると言われる。文部省唱歌などもそうした歌からきているとされるが，日本語の美しさが時代時代に追求されている。赤い鳥童謡運動もそうである。または民謡など方言なども生かされた抑揚も，自由な感情表現として貴重な歌の原動力となっていると思われる。歌の原動力を考えるとき，これは乳幼児期の産声から泣き声，喃語，そして片言と覚えていく，母親，父親，家族の声，その抑揚，環境の音などが歌の学習以前にある，重要な要素であると思われる。話し声から歌声へと発展して歌ってくれる人がいて，歌を聴くこと，音楽を聴くことは大切な乳幼児教育である。

２．歌でつながる人と心，歌の持つ力

音楽の力として考えるとき，１／ｆのゆらぎという言葉を思い起こす。これは規則正しい音とランダムで規則性がない音との中間の音で人に快適感を与えると謳われるものである。それは特にクラシック音楽に存在するとのことである。現在，音楽療法も注目されているが，環境音楽，サウンドスケープ[4)]なども一つの話題である。

声は高低，強弱，持続，音質（音色）の四つの要素から構成されその変化によって様々な表現が生まれる。これが発声教育となり，そして歌へと発展していく。音楽の三要素はリズム，メロディ，ハーモニーであり，こうした要素から音楽は作られ，音楽の力になっていると考える。そしてその音楽の持つ力が人と人とをつなぎ，共有することで，何か温かいものが伝わるではないかと思う。

３．家族や友だち，仲間同志など一緒に歌うこと

これは教育の場での課題であると考える。そうした場の提供を教室で家庭で社会で，共に歌うこと，共に歌える歌を紹介していくこと，歌うことを楽しむこと，共に感じることにあると言える。

４．みんなで共通にまた世代を超えて歌を歌うことの復活

世代を超えて歌うことの復活についてもやはり教育的配慮が必要と思われる。時代の特徴もあり，特に現代は核家族化の中で，人と人との交流にも難しい問題が多いのも実情である。世代を超えて歌う時，地域での交流の場の設定，またみんなで歌いやすい歌を選択することも大事である。今回の調査で出てきた歌は，その点からも共に歌い合って楽しめる歌が多かったので，これを参考に指導にあたりたい。

いろいろと難しい問題があるかも分からないが，先ずは声を合わせて歌ってみよう！をキャッチフレーズにして指導者として歌う場の復活を考えたい。

最後に，音楽とは？について語っている音楽学者の提唱を再度認識して今後の歌について考えて，また，進んでいきたいと考える。

音楽とは？と考えた時，≪音楽が果たす役割について考えることによって問題を説こうとした≫その提唱者は，メリアム－ A. P. Merriam とガストン－ E. T /Gaston であった。そこでメリアム－ A. P. Merriam －（音楽人類学者）は音楽には10の機能があると言っている。

その機能をここにあげる。

⑴　情緒表現の機能
　－喜びなどの感情を表現したり引き起こしたりする働き
⑵　審美的享受の機能
　－美しさを表現したり引き起こしたりする働き
⑶　娯楽の機能－人を楽しませる働き
⑷　伝達の機能－コミュニケーションの働き
⑸　象徴表現の機能－標題音楽にみるような事物の象徴的な表現
⑹　肉体的反応をおこす機能
　－舞踊的活動を引き起こす働き
⑺　社会的規範への適合を強化する機能
⑻　社会制度と宗教儀礼を成立させる機能
⑼　文化の存続と安定化に寄与する機能

---

4)　サウンドスケープ［Soundscape］はＲ・マリー・シェーファー［R・Murray Schafer］［1933～］が提唱。《音の風景》

⑽　社会の統一に貢献する機能⑺⑻⑼⑽は－国家や宗教的な讃歌に見るような社会における集団的結び付きを強化する働き　引用－３－

以上，10の機能を考察しながら，わたしたちはこうした中で音楽に生かされ，多くの人々によって歌いつがれていることを確認して結びとする。

脚注１）～親から子，子から孫へ～『親子で歌いつごう日本の歌百選』
文化庁　平成19年発行　東京書籍
脚注２）童謡を尋ねて　太田信一郎　昭和63年発行　富士出版
脚注３）わざうた　鈴木壹大　2007年初版発行　文芸社ビジュアルアート
脚注４）サウンド・エデュケーション　R・マリー・シェーファー1992年初版発行　春秋社，サウンドスケープ［その思想と実践］　鳥越けい子　1997年発行　鹿島出版会

引用文献

－１－　～親から子，子から孫へ～『親子で歌いつごう日本の歌百選』
文化庁　平成19年発行　東京書籍
－２－　心に響く童謡・唱歌－世代をつなぐメッセージ－　佐野　靖
2000年初版発行　東洋館出版社
－３－　楽しくなる音楽講座　全国大学音楽教育学会，中・四国大学音楽教育学会・編纂　1991年初版発行　エー・ティ・エヌ

参考文献

１．～親から子，子から孫へ～『親子で歌いつごう日本の歌百選』
文化庁　平成19年発行　東京書籍
２．声と日本人　米山文明　著　1998年初版発行　平凡社
３．日本のうた大全集　詩と解説　長田暁二　編著
1996年初版発行　自由現代社
４．唱歌のふるさと旅愁　鮎川哲也1993年発行　音楽の友社
５．21世紀の音楽入門１．テーマ「人間・音・響き」加藤浩子他著
21世紀の音楽入門３．テーマ「声」石澤真妃夫他著
21世紀の音楽入門７．テーマ「音楽の力」湯川れい子　他著
2003年発行　教育芸術社　その他
６．童謡を尋ねて　太田信一郎　昭和63年発行　富士出版
７．サウンド・エデュケーション　R・マリー・シェーファー
1992年初版発行　春秋社
８．サウンドスケープ［その思想と実践］　鳥越けい子
1997年発行　鹿島出版会